

---

# ハートキャッチプリキュア！短編集～新たな出会い

ユーリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハートキャッチプリキュア！短編集～新たな出会い

### 【ISBNコード】

97803774

### 【作者名】 コーリ

### 【あらすじ】

『ハートキャッチプリキュア』のその後の話。新たな仲間との出会いと、新たな闇がブロッサム達を待つ！！

## 前編・転生→キュアシャドームーン→…

砂漠王『テューン』との戦いから数ヶ月後…

月影ゆりは今日も、心の大樹に来ていた。

月影ゆり

「ロロン…」

「ロロン」

『ムーンライト、また来ててくれて嬉しいよ。』

ゆり

「ええ…」『…』しかし、私の悲しみを癒す場所はないから…

・

「ロロン」

『お父さんと妹を亡くした事だね？でも、そう悲觀する事もないかもしねないよ。』

ゆり

「え？」

「ロロン」

『心の大樹は、人の想いを摘み取つて成長するんだ。ムーンライトの想いが届けば、もしかしたら奇跡が起きるかもしれない…』

ゆり

「ありがと、ロロン…」

ゆりは帰つて行つた。

薰子が管理する植物園

花咲つぼみは妹であるふたばの面倒を見ながら、植物園の手伝いをしていた。

将来は植物学者になるつもりでいるようだ。

ジャアアアアア・・・

花咲つぼみ

「フウ・・・」

「つぼみ！」

つぼみ

「！」

つぼみが振り返ると、来海えりか・明堂院いつき・月影ゆりの3人が立つていた。

つぼみ

「みんな！」

ゆり

「つぼみもだいぶ世話をできるよ! こなつたじゃない。 もう少しあとで管理を任せられても良いんじゃない?」

つぼみ

「まだまだですよ。 こないだからおばあちゃんに稽古つけさせられてるんですが、 全然勝てなくて・・・」

明堂院いつき

「 薫子さんは本当に強いからね。 ボク達もたまに稽古つけさせてるけど、 全然だよ。」

来海えりか

「 でも植物の知識じゃつぼみは負けてないかんね!」

つぼみ

「みんな・・・」

カラソカラソ・・・

つぼみ

「あ、 お姫さんです! 」

つぼみは玄関に迎えに行く。

そして次の瞬間、 つぼみの驚く声が聞こえてきた。

つぼみ

「ええ~! 」

えりか・こつや・ゆり

「？」

ゆり

「どうしたの、つぼみ？」

つぼみ

「実は……」

「ゆりー。」

ゆり

「え……」

ゆりは田を見開いた。

そこそこたのは誰あ？、月影博士だったのだから。

ゆり

「お、お父やん……。」

月影博士

「ゆりー。」

ゆり

「お父やんーー。」

ゆりは月影博士に抱きついた。泣き出しちた。

月影博士

「心配をかけたな、ゆり・・・」

いつき

「親子の感動の再会だね。」

月影博士

「ホラ、オマエも後ろから出て来なさい。」

「はい・・・」

月影博士の後ろから出て来たのは、ダークプリキュアだった。

つぼみ

「ダークプリキュア！復活したんですか？」

月影博士

「ああ、もう彼女は普通の人間だ・・・」

美羽

「み、美羽です。よろしく・・・」

えりか

「スゴい大人しい子になっちゃったんだね。」

ゆり

「よろしく、美羽！」

その後美羽は明堂院学園に通う事となり、つぼみのクラスメートに

なつた。

つぼみ

「美羽、学校はどうですか？」

美羽

「はい、とても楽しいです・・・」

えりか

「そりゃあ、良かった。」

いつき

「みんな、大変だよ！！」

いつきが教室に入つて來た。

つぼみ

「どうしたんですか？」

いつき

「デザトリアンが現れたんだ！！」

えりか

「ええ！－！デザトリアンは倒したハズなのに！－！」

美羽

「きっと、生き残りがいたんだわ・・・行きましょ！つ、皆さん！－！」

つぼみ達は学校を飛び出し、現場に向かった。

つぼみ

「ムーンライト!!」

ムーンライト

「みんな、来たのね。」

つぼみ達3人は変身した。

ブロッサム

「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム!!」

マリン

「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン!!」

サンシャイン

「日の光浴びる一輪の花！キュアサンシャイン!!」

ムーンライト

「月光に冴える一輪の花！キュアムーンライト!!」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「ハートキヤツチプリキュア!!」

「よく来たな、プリキュア!!」

デザトリアンの横に、蛾の姿をした男が立っていた。

ガモースラ

「オレ様の名はガモースラ！！太古の砂漠の使徒の1人よ…！行け、  
蜘蛛型デザトリアン…！」

『ギシイ…』

デザトリアンはプロッサム達に向かって來た。

プロッサム

「プリキュア・ピンクフルテウェイブ…！」

マリン

「プリキュア・ブルーフォルテウェイブ…！」

サンシャイン

「プリキュア・ゴールドフルテバースト…！」

ムーンライト

「プリキュア・シルバーフルテウェイブ…！」

プロッサム達は4人一緒に必殺技を放つた。

だが、デザトリアンは蜘蛛の巣を飛ばし、攻撃を防いだ。

シユツ…！

バシン…！

ブロッサム

「効かない！？」

ガモースラ

「今度はこちらの番だ・・・デザトリアン！！」

デザトリアンは口から糸を吐き出してきた。

シユーッ！－

ブロッサム

「わわわっ！－！」

ブロッサム達は何とかかわそうとするが、追いつかれて巻かれてしまつ。

シユルルルル！－

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「キャッ！－！」

そして、4人一緒にグルグル巻きにされてしまった。

グルグルグルグル・－・

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「キャアアアアア－！」

デザトリアンはブロッサム達を前足で吊し上げる。

プラン・・・

ガモースラ

「デザトリアンよ、プリキュー達を食べてしまえ！」

美羽

「止めて！！」

ガモースラ

「ん？ 何だオマエは。」

美羽

「みんなを離して！！」

ガモースラ

「フン、生意氣な娘め。デザトリアン、あの娘も捕まえろーーー！」

デザトリアンは糸を美羽目掛けて飛ばしてきた。

シコッ！！

美羽

「全ての闇を晴らすまで、私は果てません！！」

その時、美羽の手に「クロパフーム」が出現した。

美羽

「プリキュア・オープンマイバーーーー！」

美羽は黒い光に包まれていく。

そして次の瞬間、美羽は黒い衣装の姿に変身した。

シャドームーン

「闇夜を照らす、一輪の花…キュアシャドームーン…」

ブロッサム

「キュアシャドームーン…」

ムーンライト

「あれが、美羽のプリキュア姿…」

シャドームーン

「花よ、輝け…シャドータクト…プリキュア・シャドーファイヤー…！」

シャドームーンはタクトから黒い炎を撃ち出し、ブロッサム達を吊している糸を焼き斬った。

ボンッ…！

『ギシャアアア…！』

ガモースラ

「おのれえ…！デザトリアン…！」

ブロッサム達は地面に着地する。

『ギシャアアア…！』

デザトリアンはシャドームーンに向かつて來た。

ジャキッ！！

シャドームーン

「花よ、光り輝け！！プリキュア・シャドーファイヤー・フォルテ  
ッシモ！！」

シャドームーンはタクトから攻撃を放つた。

ドンッ！！

シャドームーン

「ハアアアアアア！！」

『ポワワワワ～・・・』

デザトリアンは淨化された。

ガモースラ

「クソッ・・・」

ガモースラは撤退して行つた。

新たな仲間、キュアシャドームーンを迎えたブロッサム達。

新たな敵、ガモースラとの戦いの行方は！？

次回はももかの心に変化が！？

## 中編・燃えろ！情熱のスカーレット！！

シャドームーンを仲間にした後も、プロッサム達はガモースラの操る「ザトリアンとの戦いに明け暮れていた。

プロッサム

「プリキュア・ピンクフルテウェーブ！！」

ドーン！！

マリン

「プリキュア・ブルーフォルテウェーブ！！」

パン！！

サンシャイン

「プリキュア・ゴールドフルテバースト！！」

ゴオ！！

ムーンライト

「プリキュア・シリバーフォルテウェーブ！！！」

ドオン！！

シャドームーン

「プリキュア・シャドーフォルテウェーブ！！！」

ドン！！

ガモースラ

「クソッ、プリキュアめ・・・いつもいつもオレ様の邪魔をしやがつて。」

「ガモースラ。」

ザツ。

ガモースラ

「ん・・・？おお、アヌビーナスではないか！」

そこにいたのはガモースラの幼なじみであるアヌビーナスだった。

彼女も古代の砂漠の使徒なのだ。

アヌビーナス

「ガモースラ、あなたの戦いをしばらく見ていたわ。」

ガモースラ

「情けないところを見られてしまつたな・・・」

アヌビーナス

「そんな事もないわよ。おかげで一つの事に気づけたんだから。」

ガモースラ

「一つの事?」

アヌビーナス

「ハートキャッチプリキュアの作戦をたてたりするのは恐らくキュアムーンライトの役目でしょう。だけど実質的なリーダーは・・・」

ガモースラ

「キュアプロッサム・・・といつ事か。」

アヌビーナス

「その通り。彼女さえ潰せば、後はひとつどもなるでしょう。」

ガモースラ

「なるほどな。だがひとつやつてキュアプロッサムを潰すのだ?」

アヌビーナス

「心配しないで。アタシに良い考えがあるの。」

ガモースラ

「ほほう・・・」

2人の砂漠の使徒の魔の手が、プロッサムに迫るうとしていた。

そして翌日

『ギャオオオオオオ！』

マリン

「今までのより大きい！」

サンシャイン

「1人1人の必殺技じゃ倒せそうにないわね。」

ムーンライト

「プロッサム！」

プロッサム

「はい、あれを使いましょう！ シャドームーン、見てて下さいね！」

シャドームーン

「はい！！」

プロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト

「鏡よ鏡、プリキュアに力を！－ハートキヤツチプリキュア・スパークルエット！－」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト  
「花よ、咲き誇れ！！プリキュア・ハートキャッチオーケストラ！」

巨大な女神が、デザトリアンを叩き潰し淨化する。

ズン！！

パアア・・・

ガモースラ

「フツ、これで良い・・・」

ガモースラは撤退した。

マリン

「フーッ、今回はちょっと大きい相手だったわね。」

ブロッサム

「そう、ですね・・・」

フラツ・・・

ドサツ！

ブロッサムは倒れ込んだ。

サンシャイン

「ブ、ブロッサム！？」

ムーンライト

「プロッサム、しつかりして！…」

植物園

つぼみ

「う～ん…・・・

えりか

「あ、田が覚めた！」

つぼみ

「みんな・・・」は？

ゆり

「薰子さんの植物園よ。つぼみ、あの後倒れたの。」

いつき

「ダメじゃないつぼみ、無理したら。」

美羽

「たまには私達を頼つて下せい、つぼみさん。」

ゆり

「お粥の材料買つて来るわね。ももか、つぼみの看病頼める？」

ももか

「任せて。」

いつき

「じゃ、行こうか。」

ゆり達はお粥の材料を買いに出掛けた。

ももかはつぼみを看病しながら、メモ帳を開いていた。

つぼみ

「ももかさん、何を見てるんですか？」

ももか

「スケジュールのチェックよ。えっと、来週は休みね・・・

つぼみ

「スゴいですね、ももかさん。」

ももか

「まあね・・・」

ガチャ！

ガモースラ

「見つけた。」

アヌビーナス

「あのメガネの娘がプリキュアかしら？」

ももか

「な、何ですかあなた達は……」

ガモースラ

「どけ、姉ちゃん。オレ様達はその娘に用があるのさ。」

ももか

「何者かは知らないけど、つぼみちゃんには指一本触れさせな……」

「

ガモースラ

「邪魔だ！！」

ガモースラはももかを殴り飛ばす。

ドカッ！！

ももか

「キャアツー！」

つぼみ

「ももかさん……」

アヌビーナス

「心の花よ、出て来なさい……」

つぼみ

「キャアアアアアアー！！」

アヌビーナスはつぼみから心の花を奪った。

アヌビーナス

「デザトリアンのお出ましょーーー！」

アヌビーナスはつぼみの心の花をウツボガズラに憑依させ、デザトリアンを出現させた。

ドオンーーー

ももか

「つぼみちゃんーーー」

その頃、えりか達は材料を買い終えて帰らうとしていた。

えりか

「色々買つたね。」

いつき

「つぼみには早く元気になつてもらわないと。」

その時、ももかが走つて來た。

ももか

「ゆり、大変なのーーー！」

ゆり

「どうしたのももか？そんなに息を切らせて・・・」

ももか

「つぼみちゃんが・・・つぼみちゃんが・・・」

ももかはつぼみが閉じ込められた水晶玉を見せた。

えりか

「つぼみ！！」

ゆり

「向こうから悲鳴が聞こえる・・・行きましょう・・・」

ゆり達がその場所に着くと、ウツボカズラ型のデザトリアンと2人の男女が待っていた。

アヌビーナス

「あら、意外と早かったわね。」

いつき

「新しい幹部！？」

えりか達はプリキュアに変身した。

ムーンライト

「シャドームーン、ももかをお願い！…」

シャドームーン

「わかったわ！」

マリン

「マリンシャワーーー！」

マリンは水流で攻撃するが、デザトリアンには通用していない。

デザトリアンはツルを伸ばし、マリンを絡め取る。

シユルッ！

マリン

「キヤッ！…」

デザトリアンはマリンを飲み込んだ。

バクンー！

サンシャイン

「マリン…サンシャインフワッショーー！」

サンシャインは光でデザトリアンを攻撃する。

ブワッ！…

『・・・』

シュルツ！

サンシャイン  
「わつ！！」

グイツ！

サンシャイン  
「キヤツツ！！」

バクン！！

ムーンライト  
「サンシャイン！！」

ガモースラ  
「残り、2人。」

ムーンライト

「プリキュア・シルバーインパクト！！」

ムーンライトは爆発でデザトリアンを仰け反らせた。

ムーンライト  
「今だわ！シルバームーンアロー！！」

ムーンライトは銀色の矢でデザトリアンを攻撃する。

バシュツ！！

ドゴホー！！

しかし、効いていない。

ムーンライト

「なつ・・・」

シユルツ！

バシッ！

ムーンライト

「うつ・・・」

グイッ！

ムーンライト

「イヤア～ツ！・・・」

バクン！

ムーンライトもトザトリアンに飲み込まれた。

シャドームーン

「ムーンライト！…ももかせん、下がつて…・・・シャドーファイヤー・  
フォルテッシモ！・・・」

ドゴホー！！

シャドームーンはタクトで攻撃するが、効いていないようだ。

シャドームーン

「クツ・・・」

シュルツ！

シャドームーンはツルに足を取られた。

シャドームーン

「キヤツ！！」

ズツズツ・・・

ももか

「どうして？どうしてあなた達は罪もない人達をキズツケるの！？」

ガモースラ

「それがオレ様達の使命だからだ。」

アヌビーナス

「アタシ達は世界を砂漠にできれば、どんな事でもするのよ。」

ももか

「許さない・・・あなた達はきっと、心が冷たい悲しい人達なのね・  
・・冷たい心は、アタシの情熱で溶かしてあげる！！」

その時ももかの手が光り出し、ココロパフュームが出現した。

ももか

# 「プリキュア・オープンマイハート！」

ももかは赤い光に包まれ、赤色の姿に変身した。

スナーレット

—情熱燃やす—輪の花！キュアスカーレット！！

# シャドームーン

「キュー・スカーレット・」

## スカーレット

「クリムゾンフレアーー！」

スカーレットは強力な炎でデザトリアンを攻撃する。

デザトリアンはたまらず、マロン達を吐き出した。

ゴボッ！

# スカーレット

「花よ、焼き払え！ ファイヤータクト！ ！ プリキュア・ブロンズフ  
オルテウェーブ！！」

スカーレットは強力な炎を放ち、デザトリアンを攻撃した。

# 『ポケモン』

デザトリアンは浄化され、ガモースラ達は撤退した。

ももかを仲間に加え、さらに強くなつたつぼみ達。

次回はいよいよ、ふたばが登場します！

## 後編・奇跡の戦士、キュアイーリス！！

ガモースラとアヌビーナスは、隠れ家にて会議をしていた。

ガモースラ

「クソッ、まさかまた新しいプリキュアが生まれるとはな・・・」

アヌビーナス

「キュアスカーレット・・・少々厄介なのが出たわね。」

ガモースラ

「どうする、アヌビーナス？」

アヌビーナス

「そうね・・・彼女達の数を減らせれば良いのだけれど・・・あ!  
良い作戦を思いついたわ・・・」

植物園

ゆり

「驚いたわ、まさかももかもプリキュアになるなんて。」

ももか

「今まで応援しかできなかつたけど、これからはアタシも一緒に

戦うわ。」

つぼみ

「心強いです！」

いつき

「じゃ、学校に行こうか。」

「

つぼみ達は体育の授業を受けていた。

今はバスケットボールの時間だ。

えりか

「つぼみ！」

ブンッ！

つぼみ

「はいっ！」

パシッ！

つぼみはえりかからボールを受け取ると、走つて行く。

タタタ・・・

つぼみの前に、相手チームの1人が立ち塞がつた。

つぼみ

「美羽……」

つぼみは美羽にボールを投げた。

ブンッ！

パシッ！

美羽

「任せて……」

美羽はつぼみからボールを受け取ると、相手チームをかわしながら近づいた。

美羽

「左手は、添えるだけ……」

美羽はボールを投げる。

ボールは見事、バスケットに収まった。

『試合終了……激戦を制したのは、花咲チームです……』

えりか

「やつたね、つぼみ！」

つぼみ

「美羽のおかげです！」

美羽

「汗を流すつて、気持ち良いですね！」

つぼみ達5人は、生徒会室に集まっていた。

ももかは先に帰宅している。

つぼみ

「ガモースラとアヌビーナス・・・砂漠の使徒にまだあんなのがいたなんて・・・」

いつき

「ゆりさんは彼らの事を知つてるんですか？」

ゆり

「少しだけならね。彼らは江戸時代に生まれたとされていて、明治頃から日本各地で暴れ回つていたそうよ。」

えりか

「明治時代にもういたんだ・・・」

ゆり

「当時は特殊な戦闘装束を身につけた巫女や僧侶が戦つていたらしいんだけど、ほとんど生身の彼らでは互角に戦うのは至難の技だった。そして昭和になって、一層砂漠の使徒の攻撃は激しさを増し、

戦士達は次々に倒され日本は彼らに滅ぼされかけた・・・

美羽

「それでそのままやられたんですか・・・？」

ゆり

「その時よ、1人の女性が心の大樹に認められ、今までとは全く違つた戦士になつたのは・・・」

いつき

「まさかその人・・・」

ゆり

「そう、それが五代薫子・・・つぼみのおばあちゃんよ。」

つぼみ

「おばあちゃんが・・・」

ゆり

「薫子さんはキュアフラワーとなり、デューン率いる砂漠の使徒と戦つたわ。そして、ついに四天王と言われる幹部達との戦いになつた・・・」

フワラー

「プリキュア・フラワー・キャンドル！！」

「ゴオツ！！」

フラワー

「プリキュア・フラワーカー二バル！！」

ブワツ！！

ガモースラ

「クソツ、コイツ強い！！」

アヌビーナス

「デューン様、大丈夫ですか！？」

デューン

「な、何とか・・・」

フラワー

「デューン、あなたを封印します。プリキュア・フローラルパワー・

フラワー・シール！！」

フラワーは巨大な花を放った。

ゴオツ！！

ガモースラ

「デューン様！！」

アヌビーナス

「危ない！！」

ガモースラとアヌビーナスはデューンを庇い、封印された。

デューン

「ガモースラ！アヌビーナス！－許さんぞ、キュアフラワー……」

ゆり

「その後薰子さんはデューンと戦い、ココロパフュームの破壊と引き換えにデューンを封印したわ。」

美羽

「じゃあ、ガモースラとアヌビーナスの封印が解けたのは……」

いつき

「薰子さんの力が弱まつたから？」

ゆり

「そうよ。そして彼らはデューンの仇を討とつとしている……」

えりか

「気をつけなきやね。」

その時、紙飛行機が教室に入つて來た。

ヒュー・・・

ポトッ。

つぼみ

「紙飛行機？」

えりか

「何が書いてあるのかな？」

つぼみ達は紙飛行機を開き、中身を見て絶句した。

『プリキュアへ

オマエ達の大切な者達を預かつた

返してほしくば、町外れにある廃倉庫に来い

ガモースラ アヌビーナス』

つぼみ

「大切な人って・・・おばあちゃん！？」

えりか

「もも姉！！」

いつき

「お兄様！？」

ゆり

「お父さん・・・

美羽

「私、植物園に行つて来ます！！」

タタタ・・・

つぼみ

「みんな、行きましょう！！」

つぼみ達は廃倉庫へと向かつた。

植物園

ガチャ！

美羽

「薰子さん！…」

美羽は植物園に入る。

そこには、薰子がいた。

ももか、さつき、月影博士もいる。

美羽

「薰子さん…？それに皆さんも…」

薰子

「どうしたの、美羽ちゃん？」

美羽

「皆さんどうして…ガモースラとアヌビーナスに誘拐されたんじゃないんですか！？」

薰子

「私達が誘拐？何を言つてゐんですか…今日は私達、ずっとここにいましたよ。」

ももか

「どうしたの、美羽ちゃん？」

美羽

「ヤバいです・・・つぼみさん達が危ない・・・ももかさん、一緒に来て下さい・・・」

ももか

「わかったわ・・・」

ふたば

「お姉ちゃん達、ピンチなの？」

美羽

「ふたばちゃん。」

ふたば

「私も行く・・・」

美羽

「わかつたわ、一緒に行きましょう。」

美羽達は廃倉庫へと向かった。

つぼみ・えりか・いつき・ゆり

「う～ん、う～ん！…」

つぼみ達は廃倉庫の中に監禁されていた。

つぼみ達は4人一緒に背中合わせにされ、グルグル巻きに縛られている。

えりか

「まさか罠だつたなんて…」

いつき

「卑怯だよ…」

ガモースラ

「何とでも言え。オレ達はデューン様の仇を討つためなら何だってするのや。」

ゆり

「私達をどうするつもり…？」

アヌビースラ

「とりあえずあなた達を心の大樹に連れて行く。」

つぼみ

「美羽…ももかさん…」

美羽達が廃倉庫に着くと、そこには誰もいなかつた。

美羽

「皆さんがない……」

ももか

「一体どこに……」

ふたば

「あそこー、手紙がある。」

美羽は手紙を読んだ。

『プリキュア達を助けたくば、心の大樹まで来い』

美羽

「皆さん、今助けに行きます！！」

心の大樹

美羽

「皆さん！！」

ガモースラ

「おお、来たか。早かつたな。」

ももか

「つぼみちゃん達はビー・」

アヌビーナス

「あそこよ。」

アヌビーナスは大樹を指差した。

つぼみ達は大樹に縛りつけられている。

美羽

「今助けてます！プリキュア・・・」

アヌビーナス

「させないわ。」

アヌビーナスは両手から包帯を放ち、美羽とももかを絡め取った。

シユルルルッ！！

美羽・ももか

「キヤアツ！！」

ふたば

「美羽お姉ちゃん！ももお姉ちゃん！」

ガモースラ

「終わりだな。」

ふたば

「あなた達の心は、荒んでいるのね・・・その枯れた花、私の心で癒してみせる！！」

その時、ふたばの手が光りココロパフュームが現れた。

美羽

「ふたばちゃん、それを！！」

ふたば

「プリキュア・オープンマイハート！！」

ふたばは緑色の光に包まれ、緑色の戦士に変身した。

イーリス

「大地を癒す一輪の花！キュアイーリス！！」

えりか

「キュアイーリス・・・」

つぼみ

「ふたばが、プリキュア・・・」

イーリス

「プリキュア・エナジーソーサー！！」

イーリスは緑色の円盤を投げ、つぼみ達を縛る縄と美羽達を縛る縄を叩き斬った。

ズバッ！！

「大地に咲く一輪の花！キュアプロッサム！！」

「マリン

「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン！！」

「サンシャイン

「日の光浴びる一輪の花！キュアサンシャイン！！」

「ムーンライト

「月光に冴える一輪の花！キュアムーンライト！！」

「シャドームーン

「闇夜を照らす一輪の花！キュアシャドームーン！！」

「スカーレット

「情熱燃やす一輪の花！キュアスカーレット！！」

「プロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト・シャドームーン・スカーレット・イーリス

「ハートキャッチ・プリキュア！！」

「ガモースラ

「チツ、全員揃つちまつたか。」

「アヌビーナス

「ひつなつたら、奥の手を使いましょう。」

ガモースラとアヌビーナスは合体し、巨大な蛾のよつな姿になった。

アヌビガーモス

『競合合体・アヌビガーモス・・・プリキュア、覚悟しろ・・・』

ガガガガガガ・・・

ブロッサム

「ハートキャッチミラージュを使いましょうー全員で。」

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト・シャドーム  
ン・スカーレット・イーリス

「鏡よ鏡、プリキュアに力を！ハートキャッチプリキュア、スープ  
ーシルエット！！」

アヌビガーモス

『ギャオオオオオン！！』

ブロッサム・マリン・サンシャイン・ムーンライト・シャドーム  
ン・スカーレット・イーリス

「花よ、咲き誇れ！－プリキュア・ハートキャッチトレインボーオー  
ケストラ！－！」

ムーンライト・シャドームーン

「フツ！－」

ズオツ！－

サンシャイン

「えいつ！－」

ブワツ！－

マリン・スカーレット

「ハアツ！！」

ゴオツ！！

ブロッサム・イーリス

「やあーつ！！」

ズン！！！

アヌビガーモス

『グ・・・ガ・・・』

アヌビガーモスはガモースラとアヌビーナスに戻る。

ガモースラ

「この光・・・」

アヌビーナス

「何て優しいのかしら・・・」

ガモースラとアヌビーナスは穏やかな表情になり、淨化されていった。

パアアアアア・・・

太古の砂漠の使徒であるガモースラとアヌビーナスは、ブロッサム

達の力により浄化された。

ハートキャッチプリキュアの戦いは、まだ終わらない！！

終わり

## キャラクター紹介

花咲つぼみ／キュアプロッサム：この話の主人公であり、ツインテールの女の子。植物学者になる事を夢見ている。大地の戦士でパーソナルカラーはピンク色。決めゼリフは『私、堪忍袋の緒が切れました！！』。

来海えりか／キュアマリン：つぼみの親友であり、元気一杯な女の子。スタイルになるのが夢。海の戦士でパーソナルカラーはブルー。決めゼリフは『海より深いアタシの心も、ここらが我慢の限界よ！！』。

明堂院いつき／キュアサンシャイン：つぼみの親友であり、柔道を嗜む女の子。明堂院流の師範を務める。太陽の戦士でパーソナルカラーはイエロー。決めゼリフは『その心の闇、私の光で照らしてみせる！！』。

月影ゆり／キュアムーンライト：つぼみ達の先輩であり、冷静な性格の優等生。月の戦士でパーソナルカラーはシルバー。決めゼリフは『全ての心が満ちるまで、私は戦い続ける！！』。

月影美羽／キュアシャドームーン：元々はダークプリキュアであり、月影博士に造られたゆりの妹。人間に転生してからはお淑やかな性格になった。影の戦士でパーソナルカラーはブラック。決めゼリフは『全ての闇を晴らすまで、私は果てません！！』。

来海ももか／キュアスカーレット：えりかの姉で人気のアイドル。ゆりの親友でもある。炎の戦士でパーソナルカラーはレッド。決めゼリフは『冷たい心は、アタシの情熱で溶かしてあげる！！』。

花咲ふたば／キュアイーリス：つぼみの妹であり、無邪気な性格の女の子。まだ幼いが正義感はかなり強い。草の戦士でパーソナルカラーはグリーン。決めゼリフは『その枯れた花、私の心で癒してみ

せる！！』。

ガモースラ：太古の砂漠の使徒であり、キュアフラワーに封印された蛾の怪人。アヌビーナスと共にプリキュアを襲う。

アヌビーナス：太古の砂漠の使徒であり、キュアフラワーに封印された犬の女怪人。ガモースラと共にプリキュアを襲う。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8037v/>

---

ハートキャッチプリキュア！短編集～新たな出会い

2011年9月5日16時21分発行